

景観シリーズ6(最終回)

風景づくりの推進方策

私たちは先人から受け継いだ宝物「地域固有の素晴らしい風景」を、大切に守り育てていかなければなりません。

《問合せ》都市整備課景観政策係 ☎23-17712

風景づくりの心得

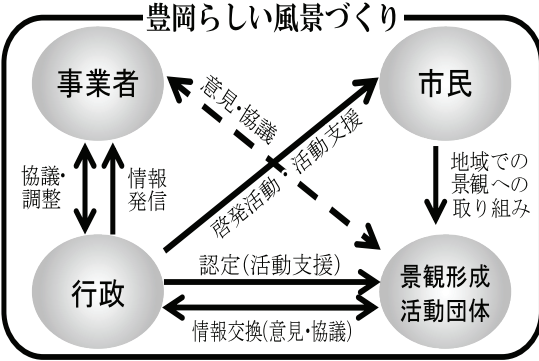
豊岡らしい風景は、景観形成基準をつくり、規制を設けても必ずしも良い景観になるとは限りません。この豊岡に住む私たち一人一人は、豊岡を愛し、先人から受継いできた風景の成り立ちをしっかりと理解し、次世代へとつなげていく重大な責任があります。

ゆえに、日々の暮らしや生業などの中で行っているなら、さらには豊岡らしい風景となるよう自ら工夫し、みんなで協力して良好な景観の形成に取り組むことが何より重要です。

協働で取り組むための役割

1 市民の役割

自らが景観の形成の主体であることを認識し、良好な景



〈協働で取り組むための役割と推進体制〉

観の形成に関し、理解を深め、積極的な役割を果たすよう努めるとともに、市の施策に協力します。

2 事業者の役割
自らが行う事業活動が、良好な景観の形成に深い関わりを持つことを認識し、事業の実施に当たっては、良好な景



観の形成に努め、市の施策に協力します。

3 景観形成活動団体の役割
活動の中で積極的に良好な景観の形成に貢献するよう努めるとともに、市民・事業者・行政の「つなぎ役」や「けん引役」としての役割を担います

4 市の役割
良好な景観の形成に関する総合的かつ先導的な施策を実施し、市民および事業者の意見が反映されるよう努めます。また、公共施設の建設などに当たっては、地域の景観特性に応じた良好な景観の形成に寄与するよう努めます。さらに、市民、事業者および市民団体などと連携し、それらが主体的かつ積極的な取り組みができるよう景観意識の高揚を図り、国・他の地方公共団体および市内で活動する公共的団体に対し、市の施策

豊岡らしい景観を形成するための施策

に協力するよう要請します。

1 効果的な手続き(事前協議)

届出の前に良好な景観を形成するための協議を行う

2 市職員や景観アドバイザーの派遣
地域の景観まちづくり活動などに対して、市職員や専門的な知識を持つ者を派遣する制度を創設

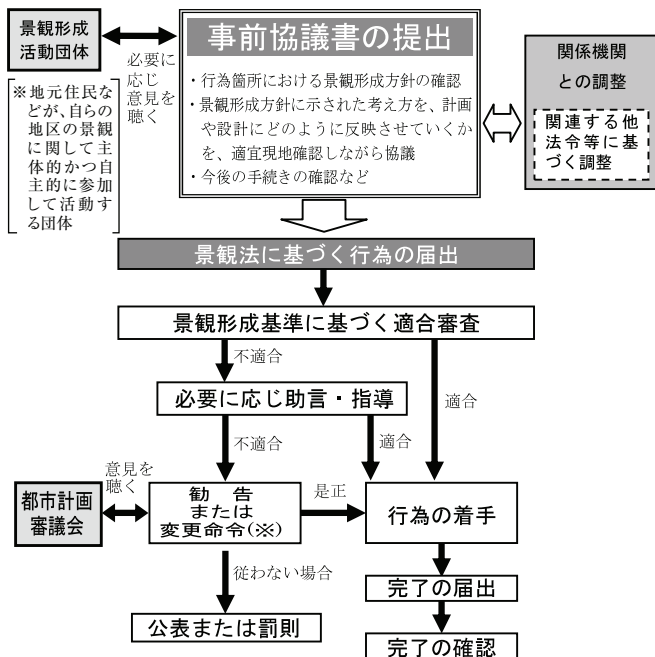
3 支援制度
景観形成重点地区で行為に

4 普及啓発
情報発信、啓発イベント、出前講座など

5 人材の育成
景観学習の推進など

6 顕彰制度
良好な景観の形成に貢献している個人や団体を表彰

《届出の手続き》



※基準に適合しない場合は、都市計画審議会の意見を聴いた上で、景観法に基づく勧告または変更命令を行うことがあります。



毎月第2水曜日は豊岡ノーマイカーデー!

第7回は4月10日(水)

【2月の結果】

- ・参加事業者数：15団体 ・個人参加の市民：2人 ・参加総数：175人
 - ・二酸化炭素(CO₂)の削減量：約400kg
 - ・マイカーを自粛した距離：1,750km(豊岡 - 東京間1.5往復の距離)
- ※CO₂排出削減効果は、〔燃料節減量(ℓ)×ガソリンCO₂排出係数(2.32kg-CO₂/ℓ)〕と仮定しています。
- ※燃料節減量は、前提条件をガソリン、燃費10km/ℓと仮定しています。
- ※自粛した距離は1人10kmと仮定しています。

バスや電車も
ええもんじゃ!



◆平成25年4月から9月まで、第2期「豊岡ノーマイカーデー」がスタートします。事業所の方も個人の方も、ぜひ、取り組んでください。

- ・事業所で参加 → 企業エコポイント2,500ポイント + 参加者に市民エコポイント1ポイント付与
- ・個人で参加 → 市民エコポイント1ポイント付与

《登録・報告・問合せ》地域戦略推進課 ☎21-9012 FAX26-1337

メールアドレス ecovalley@city.toyooka.lg.jp



▲市旗と一緒に記念写真

毎日、毎日、南極の自然と格闘しているうちに、1年が過ぎてしまいました。希望と不安を抱いて挑んだ越冬生活でしたが、南極の自然は想像以上に厳しく、簡単に私たちが受け入れてくれませんでした。南極生活で最も大切なことは、自然と対立するのではなく、うまく付き合うこと。自然そして健康な「地球」があつてこそ私たち。自然を守るための大切さや社会の中で生きることの難しさ、いろいろ

平成23年12月23日、「みやぢ」こと宮下泰尚隊員(豊岡市職員)が「第53次南極地域観測隊越冬隊員」として南極昭和基地に立ちました。豊岡市民にとって、豊岡にいなながら世界につながるという新しい夢の始まりです。世界に飛び出した宮下隊員のレポートを紹介します。

《問合せ》植村直己冒険館 ☎44-15515

「みやぢ」南極へ行く⑮ 帰国【最終回】

ろなものに興味を抱く大切さなどを越冬生活で学びました。日本に帰ったら、私が学んだこれら多くのことを、皆さんに伝え、南極という2文字を覚えていただこうと思います。

私の南極行

- 平成23年11月25日：飛行機で日本を出国し、「しらせ」が待つオーストラリア・フリーマントルへ。翌日乗船
- 11月30日：「しらせ」がフリーマントルを出航。海洋観測しながら南極へ
- 12月23日：「しらせ」の積載ヘリコプターで南極昭和基地へ入り活動開始
- 平成24年2月12日：52次隊との越冬交代式を行い越冬開始
- 平成25年2月1日：54次隊へ引き継ぐ越冬交代式を行う。しかし自然エネルギー棟建設のためしばらく



▲時間を掛けるとこのとおり。カップラーメンが寒さで固まる

昭和基地に滞在

- 2月10日：昭和基地をヘリコプターで後にし「しらせ」に乗り込む。オーストラリアへ向け出発
- 3月18日：オーストラリア・シドニー着。「しらせ」下船
- 3月20日：飛行機で帰国

出国から帰国まで482日間。南極滞在：416日間。皆さん、長い間、応援ありがとうございました。

※詳細は、ブログ「植村直己冒険館職員南極へ行く」で紹介しています。
<http://blog.apteacup.com/boukenkan/>

訂正とお詫び

2月25号、7ページの「みやぢ」南極へ行く⑭の中で、「11日に『しらせ』に乗り込みました」とあるのは「10日に『しらせ』に乗り込みました」の誤りでした。お詫びし訂正します。